

2022 鈴鹿サンデーロードレース最終戦 第58回NGKスパークプラグ杯 参戦報告書

アドバンス生2名が、ナショナルクラスチャンピオンを争った!
高平理智が2022年度チャンピオンの座を獲得

11月19日(土) 公式予選 10:10~10:30 ◎天候・路面: Fine/Dry

#21岡田陽大 予選3位 2'21.746 #44高平理智 予選6位 2'23.458

4月から始まった鈴鹿サンデーロードレースもいよいよ最終戦。HRSアドバンス生が参戦するナショナルJ-GP3クラスは、#44高平理智と#21岡田陽大がチャンピオンの座をわずか1ポイント差で争う展開でレースを迎えることになった。

#12豊田哲慎は今回は体調不良で欠場となり、#7松岡絢音は前戦での怪我が完全に回復せず、こちらも参戦を取りやめている。

予選時間は20分間。真っ先にコースインしていったのはランキング2位の岡田で、集団の中でポジションを入れ替えながらタイムを伸ばしていく。ランキングトップの高平は集団から距離をとってコースインし、単独でタイムアップを目指す。

岡田は4周目に2分21秒746を記録して3番手グリッドを獲得し、フロントロウにマシンを並べることができた。一方の高平は思うようにタイムが伸ばせず、7周目に23秒458をマーク。さらなるタイムアップを目指すものの、9周目の1コーナーでスリップダウンしてしまった。幸い高平に怪我はなく、決勝は2列目6番手グリッドからスタートすることになった。

11月20日(日) 決勝レース(フルコース10周) ◎天候・路面: Cloudy/Dry

#44 高平理智 総合4位/ナショナル3位/NSFチャレンジ3位
#21 岡田陽大 転倒リタイヤ

午前9時45分、10週の決勝レースがスタートする。岡田は抜群のスタートで1コーナーにトップで進入、その後順位を落とすもののトップグループにくらいつき、オープニングラップを3番手で通過。高平もトップグループに続いて5番手で2周目に突入する。

岡田は2周目の1コーナーにトップで進入すると、そのままトップで2台によるトップ争いを展開していく。しかし、バックストレートでイン側から先行され、アウト側から130Rに進入した岡田のマシンはグリップを失って転倒。これにより岡田の逆転チャンピオンの可能性は無くなった。

岡田の転倒でトップグループは3台に絞られた。セカンドグループの高平は2周目の1コーナーで大きくふくらんでしまい、8番手にまでポジションを下げてしまうものの、4周目にセカンドグループの先頭に立つまでに回復。だがこの時点でトップグループに大きく差をつけられていて、その差は最後まで縮まることはなかった。

総合4位、ナショナルクラス3位でチェッカーを受けた高平は、総合ポイントで87となり、2022年度ナショナルGP-3クラスチャンピオンの座を獲得した。岡田はランキング3位という結果となった。



2022 鈴鹿サンデーロードレース最終戦 第58回NGKスパークプラグ杯 参戦報告書

ナショナルJ-GP3クラス: 予選6位 決勝総合4位(ナショナル3位/NSFチャレンジ3位) 高平理智(たかひら りいち) 14歳

『今回は金曜と土曜日に転んでしまい、バイクの状態に不安がある中での決勝でした。決勝では2周目の1コーナーのオーバーランでトップから離されてしまいました。それ以降は第2集団の中での走行になりましたが、その中には全日本選手権にも参戦している速いライダーが多く、そういった状況の中で、どうすれば自分のポジションを上げていけるのかということが、レースを通して少し理解できました。今シーズンの最初のレースは何もできないような状況でしたが、第5戦でランキングが1位となり、そこからはチャンピオンを意識するようになりました。チャンピオンにはなれませんが、今回のレースではタイムも伸びませんでしたし、勝って決められなかったので残念でもあります。HRSアドバンスでの1年を振り返ると、以前よりも自分の意思を人に伝えられるようになったと思います。来年はアジアタレントカップに参戦するので、この1年でNSF250Rというバイクになれることが出来たのも大きな収穫です』



ナショナルJ-GP3クラス: 予選3位 決勝リタイア 岡田陽大(おかだ ひなた) 15歳

『前回の東コースでの優勝からいい流れをキープして今回のレースに臨みました。決勝は勝てるレースだったと思います。ウォームアップラップで自分の悪いポイントを改善し、1周目から攻めましたが、今冷静になって思い直すと、もっと早くアクセルを閉じてシケインで刺し返すべきでした。この1年を振り返ると、チャンピオンは逃してしまいましたが、レースに出るたびに自分の悪いところがハッキリと分かり、そういった経験を重ねることのでいい結果が残せるようになったと思います。HRSではバイクの基本や考え方を学びました。これは一生使えるものだと思います。去年の今頃と比べると自分でも様々な面で成長できたのではないかと思います。教えていただいたことは、まだまだ知っているというだけで実行はできていませんが、今年のオフシーズンはその教えをしっかりと守り、実際に行えるようになりたいです』



2022 鈴鹿サンデーロードレース最終戦 第58回NGKスパークプラグ杯 参戦報告書

上田昇 Instructor

『高平の走りには今回硬さがありましたね。練習走行と予選で転んでしまったことによる不安に加え、チャンピオンも意識してしまったのかもしれませんが、仕方のない部分もあったのかもしれませんが、それでOKというわけではありませんし、それは彼自身もしっかり理解していると思います。岡田は大きな転倒でシーズンを終えることになってしまいましたが、メンタルの面でダメージが残らないよう、今回のミスを徹底的に追求して欲しいです。この2名に関しては、最初のレースと比べると大きく進歩しています。ですがMotoGPで勝てるライダーという最終目標を考えると、まだまだ発展途上です。そのためにはどうすればいいのかということ自身で考えて導き出せるように指導してきましたが、ライディングに関しては皆センスがありますし、我々が示す方向性やアドバイスもすぐに理解してくれました。教えたことを応用、発展させるためにはもう少し時間が必要だと思いますが、最終戦が終わった今のタイミングで、あらためて今シーズンを振り返ってもらい、来年に向けて取り組むべき課題をしっかりと考えてほしいと思っています。

今回豊田は参戦できませんでしたが、内に秘める闘志は4名のアドバンス生の中では一番でした。他の3名へのアドバイスにも耳を傾けるなど、どんな姿勢も見られました。シーズンが始まった時点では実力的に他の3名に先行されていましたが、最終的には3名に追いつくまでに成長しています。また松岡ですが、怪我が思ったよりもひどい状況で、回復にはもう少し時間がかかりそうです。とはいえ彼は今回最終戦ということで自主的にサーキットに来ています。彼がケガで休んでいる間に高平や岡田、豊田に教えたこと、今回松岡にもじっくりと伝えました。この冬は怪我の克服のみならず、今回我々が教えたことしっかりと身に付けて欲しいですね』

